

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-343497

(43) 公開日 平成11年 (1999) 12月14日

(51) Int. Cl. ⁶	識別記号	F I
C 1 1 B 9/00		C 1 1 B 9/00 A
A 6 1 K 7/00		A 6 1 K 7/00 K
		W
7/46	3 0 1	7/46 3 0 1
7/48		7/48

審査請求 未請求 請求項の数5 書面 (全 6 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願平10-188008	(71) 出願人	591230619 株式会社ナリス化粧品 大阪府大阪市福島区海老江1丁目11番17号
(22) 出願日	平成10年 (1998) 5月29日	(72) 発明者	末次 一博 大阪府大阪市福島区海老江1丁目11番17号 株式会社ナリス化粧品内
		(72) 発明者	綿貫 茂喜 福岡県福岡市中央区薬院4丁目5-4
		(72) 発明者	横山 詔常 大分県別府市南荘園町15組

(54) 【発明の名称】 化粧料

(57) 【要約】

【課題】 鎮静作用、安眠誘発作用を有する香料成分を配合して睡眠の質を向上させることによりセストレスを緩和する化粧料を提供する。

【解決の手段】 ローズマリー、ラベンダー、カモミルブルー、ビターオレンジ、センキュウの香気成分の1種または2種以上を配合して睡眠の質を向上させることによりセストレスを緩和する化粧料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ローズマリー、ラベンダー、カモミルブルー、ビターオレンジ、センキュウの香気成分の1種または2種以上を含有することを特徴とする鎮静作用を有する香料組成物。

【請求項2】 ローズマリー、ラベンダー、カモミルブルー、ビターオレンジ、センキュウの香気成分の1種または2種以上を含有することを特徴とする安眠誘発作用を有する香料組成物。

【請求項3】 ローズマリー及び／又はビターオレンジの香気成分を少なくとも1%以上配合することを特徴とする鎮静作用を有する香料組成物。

【請求項4】 ローズマリー及び／又はビターオレンジの香気成分を少なくとも1%以上配合することを特徴とする安眠誘発作用を有する香料組成物。

【請求項5】 請求項1、2、3、4記載の鎮静作用、安眠誘発作用を有する香料組成物を含有することを特徴とする睡眠の質を向上させることを特徴とするストレス緩和化粧料。

【0001】

【発明の詳細な説明】

【産業上の利用分野】 この発明は、ローズマリー、ラベンダー、カモミルブルー、ビターオレンジ、センキュウの香気成分の1種または2種以上を含有することにより、鎮静作用、安眠誘発作用を有する香料組成物を得ることができ、それを配合することにより睡眠の質を向上させストレスを緩和する化粧料に関するものである。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】 近年の社会生活の複雑化に伴い、疲労や精神的ストレスに悩む人が増加している。それに伴い、頭痛、胃腸の不調や不眠等の症状さらには肌荒れなど皮膚への影響を訴える人が増えている。それらは精神的ストレスに起因するものが多いと考えられている。さらに、精神的ストレスは脱毛、シミの生成や老化に影響し、アトピー性皮膚炎との関連も重要視されるようになってきている。

【0003】 従来、シミなどの皮膚に現れる生理的なトラブルは薬効のある成分を化粧料に配合し、皮膚に塗布したり、食品の形態で経口的に投与したりして有効性を求めるというような医学的な手法が主流であった。しかし、精神的ストレスを緩和することにより、美容上のトラブルや身体的なトラブルを抑えることができさらに改善することも可能であると考えられる。日々の生活の中で、仕事による精神的ストレスや疲労を取り除くためには睡眠が重要な役割を果たす。睡眠は本能行動であると共に昼間活動的だった中枢、自律神経の活動を抑制し、明日へのエネルギーを貯える。さらに睡眠中の熟睡期には成長ホルモンが放出され、生体を積極的に構築や補修を行い、体細胞の増殖促進、成長期には骨の成長に関与するなどの役割を果たす。このように健康な生活を営む

ためには睡眠は不可欠である。また、現代は情報化、国際化社会であり、人の活動時間帯は延長されこれに伴い、睡眠時間が減少しているのが実状である。しかし、睡眠の質的向上は極めて難しいのが現状である。

【0004】 快適で質の良い睡眠をとるための要因として、人的要因、環境要因が考えられる。人的要因としてはサーカディアンリズムに沿って規則正しい生活することなど考えられるが、現代社会の抱える問題として無理がある。環境要因として温度、湿度、照明、音、振動等が挙げられるが十分ではない。

【0005】

【問題を解決する手段】 睡眠の質的向上を得る環境要因として、温度、照明、湿度、音、振動の他に香りがある。発明者らは、鎮静作用、安眠誘発作用を有し、質の高い睡眠を得ることによりストレスを緩和する化粧料を提供するために香りに関して検討した。それは、香りを感じ取る嗅覚が、伝達経路の特性として大脳にダイレクトに反映するため、他の感覚よりもストレートな影響を与えられと考えられるからである。睡眠時にはエネルギー保存を可能にするため体温が低下する。入眠時に体温の低下を促すために末梢の血管が拡張することにより、皮膚温が上昇する。そして、温熱性発汗を促進し、放熱することにより体温は低下する。また、心臓の交感神経の活動も低下する。これらのことから入眠時には収縮期血圧LF成分も自律神経の交感神経α作用の指標である心拍変動(HRV)のLF/HF成分がともに減少し、また睡眠時には副交感神経活動が亢進されることより、副交感神経の指標であるHRVのHF成分は増加すると考えられる。

【0006】 本発明者は、前記の点を考慮しつつ、前記生理的变化を指標として、各種精油について鋭意検討した結果、鎮静作用、安眠誘発作用を有する精油を見出した。これらの香料組成物は、睡眠の質を向上させストレスの影響を抑えることができ、ストレス起因の悪い症状を緩和するものと考えられる。

【0007】 本発明において鎮静作用、安眠誘発作用を有し、睡眠の質を向上させストレスの影響を抑えることができ、ストレス起因の悪い症状を緩和する香りとしてローズマリー、ラベンダー、カモミルブルー、ビターオレンジ、センキュウを選択した。

【0008】 これらの香りは、水蒸気蒸留や低沸点の有機溶剤抽出により得られる天然精油や水系の有機溶媒や水さらにはその混液を用いて得られた抽出物を単独または複合して、もしくはその他の香料組成物と本発明の香料組成物を混合しても有効な効果を得ることができる。その他の香料組成物としては天然精油としてシトロネラ油、カモミル油やパチュリ油等そしてそれらの抽出物があり、単一香料としてはゲラニオール、シトロネロール、ファルネソール、フェニルエチルアルコール、シネオール、酢酸リナリルやシトラールなどのニュートラル

な香りと組み合わせることによってもその作用は失うことはないことは有までもない。

【0009】本発明における各精油を簡単に説明すれば以下の通りである。ローズマリーの香気成分は、シソ科に属するマンネンロウ (*Rosemarinus officinalis* L.) から得ることができる。精油は、その葉、花または全草を水蒸気蒸留によって得ることができる。成分としてボルネオール、カンファー、シネオールなどを含んでいる。この精油は一般に香辛料などに用いられるほか石鹸や溶剤としても利用されている。この精油は一般に興奮、代謝促進、血行促進、発汗作用を持ち血行障害やその他精神疾患などにも利用されている。抽出物は、フラボノイド類、フェノールカルボン酸類、シネオール、ボルネオールなどを含み、抗酸化作用、脱毛予防作用などをもっている。

【0010】ラベンダーの香気成分は、シソ科に属するラベンダー (*Lavandula officinalis*) から得ることができる。精油は、その花穂を水蒸気蒸留または有機溶媒抽出することによって得ることができる。成分として酢酸リナリル、リナロール、3-オクタノール、ラバンジュロールなどを含んでいる。ラベンダー油は興奮薬として外用し、リュウマチの痛みを中和するために用いられる。抽出物は、タンニン酸を含み、収れん作用や抗炎症作用を持っている。

【0011】カモミルブルーの香気成分は、キク科に属するカミツレ (*Matricaria chamomilla* L.) から得ることができる。精油は、その花を有機溶媒抽出することによって得ることができる。成分としてアズレン、ファルネセン、ピサボロールなどを含んでいる。抗炎症、防腐、鎮痙薬として用いられる。抗アレルギー剤として化粧品に広く使われる。抽出物はアピゲニン配糖体、アズレン、フラボノイド類を含み、消炎作用、養毛作用、収れん作用殺菌作用、血行促進作用を持っている。

【0012】ビターオレンジの香気成分は、ミカン科のオレンジ (*Citrus aurantium* L.) から得ることができる。精油は、その果実を圧搾して得ることができる。成分としてリモネン、デシルアルデヒド、カプリル酸デシルなどを含んでいる。この精油は味覚神経を刺激し、反射的に唾液と胃液の分泌を高め、消化と食欲促進の働きがある。抽出物は、ビタミンA、B、C、Eや糖類を含み、収れん作用や保湿作用を持っている。

【0013】センキュウの香気成分は、セリ科のセンキュウ (*Cnidium officinale* Makino) から得ることができる。精油はその根茎から水蒸気蒸留、または有機溶媒による抽出によって得ることができる。成分としてシニディウムラクトン、シニディウム酸などを含んでいる。この精油は脳皮質に対し鎮静作用、延髄中枢に関して血のめぐりや血圧を高める働

きがある。抽出物は、チロシナーゼ活性阻害作用や抗炎症作用を持っている。

【0014】以上の香気成分の中で、ローズマリーの生理的に与える作用では、従来、興奮、代謝促進、血行促進、発汗作用などの作用を持ち、刺激的な香りで集中力を高めたり、リフレッシュなどの覚醒方向の知見が中心であった。また、ビターオレンジに関してもさわやかな香りでもリフレッシュの香りと考えられている。しかし、今回の発明ではローズマリーやビターオレンジに新たに鎮静方向の作用が確認されたことになる。それだけでなく、今回の結果から安眠誘発の作用も持つこと示唆された。

【0015】この発明における香料組成物は、香気成分を含有するものであり、その作成法は種々の方法で行うことができる。一般的には、水蒸気蒸留や低沸点の極性の比較的低いヘキサンやエーテルなどによる有機溶剤抽出により得られる精油を利用することが望ましい。そのほかエタノールや1, 3-ブチレングリコールにより得られる抽出物やそれらと水の混液で抽出した抽出物も香気成分を含むために利用可能である。

【0016】この発明にかかる香料組成物の各種化粧料に対する配合量は、その化粧料の目的、実施態様、化粧料の使用形態などに応じて変動させることができるのでとくに限定されない。原則的には、有効量存在すれば良いことになるが、一般的には化粧料組成物中0.0001~50重量%が利用でき、好ましくは0.01~10重量%、なかでも0.1~5.0重量%が最適である。

【0017】本発明の香料組成物の各種化粧料には、必要に応じてスクワラン、ホホバ油、高級アルコール、シリコーン油、流動パラフィン、エステル油などの油分、プロピレングリコール、1, 3-ブチレングリコール、グリセリン、ポリエチレングリコールなどの保湿成分、メチルセルロース、カルボキシビニルポリマーなどの水溶性高分子、動植物由来の天然エキス、クエン酸、乳酸などの有機酸、その他香料、防腐剤、紫外線吸収剤、酸化防止剤など一般的に化粧料に配合される成分とともに配合することができる。なお、これらは本発明の目的を損わない質的・量的条件で使用されなければならない。

【0018】この発明にかかる化粧料の適用範囲は、特に限定されない。つまり、この発明の有効成分が有する作用効果に応じて各作用効果を利用できる全ての化粧料に適用できる。

【0019】たとえば、この発明にかかる有効成分を各種化粧料基剤などに配合して、原則的にはクリーム、乳液、化粧水、パック剤、洗顔料などの各種基礎化粧料、ファンデーション、ほほ紅、白粉口紅などの各種メーキャップ料、洗髪料、養毛剤、シャンプー、リンス、ボディロションなどの各種頭髪用化粧料、石鹸、ボディソープ、美爪料、オーデコロン、入浴料などその他化粧料に対して広範囲に適用できる。また、前記各種化粧料の実

施態様は、溶液、エマルジョン、軟膏、ゾル、ゲル、パウダー、エアゾールなどの各種態様で適用できる。

【0020】しかし、睡眠の質を向上させる化粧品であるからには、好ましくは入浴中に使う入浴剤、シャンプー、ボディークリーム、リンスや睡眠前に使うパック剤、クリーム、乳液、化粧水等が好ましい。さらに、化粧品だけではなく食品や医薬品にも利用できることはいうまでもない。

【0021】つぎに、本発明を実施例に基づいてさらに詳細な説明をするが、本発明はかかる実施例のみに限定されるものではない。

【0022】

【実施例1】健康な男子学生8名(21~24才)を被験者とし、実験前日は十分な睡眠をとり、実験開始2時間は飲食や喫煙を禁止した。精油をプロピレングリコールで希釈し、1%、0.5%の2濃度のものを用いた。においをガラス製のガス洗浄便に入れ、一定圧の無臭空気によってバブリングした。発生したにおいはテフロンチューブを介して被験者の鼻孔10cm下から呈示した。室内の残り香をなくすため、被験者の頭上にダクトを設置し、排気を行った。

【0023】被験者は実験室入室後5分間安静にし、0.33Hzの呼吸統制を行い、2分30秒間安静状態を測定した。その後、匂い刺激開始すると同時に曝露状態の測定を2分30秒間測定した。1分後同じように曝露状態の測定を行った。呼吸統制はそれぞれ測定開始の

試料	収縮期血圧LF成分	HRVのLF/HF	HRVのHF成分
ローズマリー油	低下	低下	不変
ラベンダー油	増加	低下	不変
カモミール油	増加	不変	増加
ビターオレンジ油	不変	低下	増加
セキユウ油	不変	低下	不変
ペパーミント油	増加	不変	不変
ユーカリ油	増加	不変	不変

【0026】

【実施例2】健康な女性10名(24~30才)を被験者とし、処方例4に示したピールオフパックを入浴した後、睡眠前に実施させた。実施は7日間行いアンケートにより、睡眠への影響を調査した。その結果を表2に示した。本発明品を使用することにより通常よりも良い睡眠がとれることが確認された。

【0027】

【表2】

睡眠の状態	人数
熟睡できた	1
まあまあ熟睡できた	4
変化なし	5
眠れなかった	0

30秒前から行うようにした。これを1セッションとし、一人の被験者は、1日4セッション(匂い試料2種類2濃度)を行った。8名の被験者を2名ずつ4グループに分け、1測定条件測定後、前の匂いの影響をなくするため15分の休憩をとった。測定項目は心電図と連続血圧とした。これらを元に自律神経活動の指標である心拍変動や血圧変動を求めた。心電図は、生体アンプで時定数0.1sec.高周波帯域フィルター300Hzに増殖した後、250Hzでサンプリングし、コンピュータに取り込んだ。連続血圧は、フィナプレスを用い250Hzでサンプリングし、直接、コンピュータに取り込んだ。各種、精油について結果を示す。

【0024】入眠時には収縮期血圧LF成分も自律神経の交感神経 α 作用の指標である心拍変動(HRV)のLF/HF成分もともに減少し、また睡眠時には副交感神経が働いた状態になることより副交感神経の指標であるHRVのHF成分は増加すると考えられるため、表1の結果より、ローズマリー油、ラベンダー油、セキユウ油はHRVのLF/HF成分が減少し、カモミールブルー油は、HRVのHF成分が増加し、ビターオレンジ油はHRVのLF/HF成分が減少し、さらにHRVのHF成分が増加しているため質の良い睡眠を得ることができると考えられる。

【0025】

【表1】

【0028】本発明の基づき、化粧品の処方例を示すが、本発明はかかる処方例のみに限定されるものではない。

【0029】

【処方例1】クリーム

7	8
ステアリルアルコール	6.0
ステアリン酸	2.0
ワセリン	4.0
スクワラン	9.0
オクチルドデカノール	10.0
1, 3-ブチレングリコール	6.0
グリセリン	4.0
POE (20) セチルアルコールエーテル	3.0
モノステアリン酸グリセリン	2.0
ラベンダーエキス (1, 3-ブチレングリコール)	0.2
ローズマリーエキス (1, 3-ブチレングリコール)	0.2
防腐剤	適量
酸化防止剤	適量
精製水	残部
【0030】	【処方例2】 マッサージオイル
＜組成＞	(重量%)
スクワラン	9.0
ホホバ油	40.0
流動パラフィン	50.0
ローズマリー油	1.0
【0031】	【処方例3】 オーデコロン
＜組成＞	(重量%)
ローズマリー油	3.0
グリセリン	4.0
エタノール	85.0
酸化防止剤	適量
精製水	残部
【0032】	【処方例4】 ピールオフタイプパック
＜組成＞	(重量%)
ポリ酢酸ビニルエマルジョン	15.0
ポリビニルアルコール	10.0
ソルビトール	5.0
ポリエチレングリコール400	5.0
ホホバ油	3.0
スクワラン	1.0
POEソルビタンモノステアリン酸エステル	1.0
酸化チタン	5.0
タルク	10.0
エタノール	8.0
ラベンダー油	0.3
ローズマリー油	0.2
防腐剤	適量
精製水	残部
【0033】	【処方例5】 化粧水
ヒアルロン酸 (0.1%水溶液)	2.0
1, 3-ブチレングリコール	5.0
グリセリン	3.0
ローズマリー水	4.0
ラベンダー水	7.0
センキュウ水	1.0

(6)

特開平11-343497

9
防腐剤
精製水

10
適量
残部

【0034】

【発明の効果】 鎮静作用、安眠誘発作用を有する香気成分を化粧料に配合し使用することにより、睡眠の質を

向上させストレスの影響を抑えることができ、ストレス起因の悪い症状を緩和することができる。それにより、ストレス起因の肌に対するトラブルも改善できる。

フロントページの続き

(51) Int. Cl. ⁶

A61K 35/78

識別記号

AAE

FI

A61K 35/78

K

N

C

AAEQ